

私の世界が変わったきっかけ

小学校五年

「どうしてこんな悲しいことをわざわざ放送するのだろう。」「これを見た人はどう思うだろう。」「私はこれまで、何も思わずドラマやニュースを見ていましたが、前までとガラッと見方が変わる出来事がありました。」

それは、『命の詩』という詩を学校の道徳で学習したからです。この詩を作ったゆきなさんは、小学四年生で、この詩を書いた四か月後に小児がんで亡くなりました。ゆきなさんの入院している病院では苦い薬を飲み、痛い治りようをがまんして、がんばって生きている子がたくさんいました。生きたくても生きられない子がいるのに、なんで自殺したり、いじめたりするのだろう。ゆきなさんは残った命をせいいっぱい生きたいという気持ちを詩に込めていました。ゆきなさんは、もっと生きたかったに違いありません。学校で友達とおしゃべりをしたり、運動場を走ったりしたかっただろうなあ。命の限り

せいいっぱい生きたゆきなさんはすごいなあと思いました。

それなのに、テレビをつけると戦争のニュースや人を傷つける事件など命に関わるニュースが放送されています。命を大切にしなければと思いました。きつと、ゆきなさんが見たら悲しいだろうなあ。私もゆきなさんと同じで悲しくなったり、腹が立ったりしました。そこで、母に「何でこんな悲しいことをわざわざ放送するのだろう。」と聞いてみました。「受け取る相手によって、同じことでも感じ方が違うからね。」と言っていました。

よく考えてみると、私が何気なく言った言葉で友達とけんかになったことがありました。反対に、友達の思わぬ言動にびっくりしたこともありました。きつとテレビの放送をしている人も誰かを傷つけたいと思っているわけではないと思います。相手のことを考えて言葉を選ぶことも大切だと気づきました。

私は「命の詩」に出会って、命の大切さと相手を目指しやる言葉選びの大切さについて学びました。私の世界が変わったきっかけです。